

えんど久子県議 県の昨年度決算について討論

# 四国への橋もトンネルもいらない

暮らし福祉にこそ

税金は使うべき

大分県と四国の愛媛県を橋で結ぼうかトンネルを掘ろうか、という豊予海峡ルート。この「夢の灯を消さない」と大分県は言っています。南海トラフ地震の可能性大だというのに…。コロナ禍で県民の暮らしはますます厳しい。何兆円かかるかわからない橋やトンネルに莫大な経費をかけるより、暮らしや福祉などに税金は使うべきです。

12月2日の県議会での昨年度の大分県の決算についての討論で、猿渡（えんど）久子県議はこの考えを述べました。

## 大企業への補助金より 中小業者へ支援を

来年度予算では、補助金漬けの企業立地はやめて、正規労働が当たり前のルールを作ることも、決算の討論で求めました。

大分県は、昨年度に8億8473万円を立地企業に補助。補助金を出さなくても大企業は立地条件や雇用等で判断し進出しています。これ以外にも工業団地開発推進事業費や企業立地推進等基金積立金に、約42億4764万円支出しています。

他の会派はそろって賛成

企業立地補助金や、来るあてのない企業の為に団地造成をするのではなく、コロナウイルスの影響でいっそう疲弊している県民の暮らしや福祉・医療の応援や中小業者の支援策にこそ使うべきだと考えます。

このような内容を含む決算の認定に反対したのは、日本共産党だけでした。



決算に反対の意見を述べるえんど県議。コロナウイルス対策でアクリル板やマスクを使用しています。

20.12.2. 大分県議会

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団  
大分県議会議員 えんど久子

TEL・Fax 097-537-2344 No.49 2020.12.10.

えんど久子のホームページはっぴーえんど・どっとねっとをぜひご覧ください

# 第3波から命と医療を守るために

## 感染経路を調べるために

第3波のコロナウイルスの感染が広がり、41%が感染経路不明です。

12月7日の福祉保健生活環境委員会で、えんど久子県議はコロナの検査や医療について質問しました。「感染経路を専門に追う

トレーサーが必要では」とえんど県議。医師である藤内課長は「40〜45%の人が無症状で、努力しても無症状者からの感染もあり感染元がわからない場合もある」などと答えました。

## PCR検査1日917件可能に 抗原検査も多数

えんど県議は「1日917件のPCR検査が可能になった。抗原検査を含め計最大1日4000件と聞く。せっかく苦勞して増やした可能な検査数をもっといかにして、さらに幅広く検査を行うべきだ」と主張。

藤内課長らは「この1週間でPCR検査と迅速診断キットの検査を計2882

件、1日平均414件実施した。迅速診断キットで陽性の人はPCR検査をしている。インフルエンザと同様流行した場合にも1日に最大計4000件の検査が可能な体制を確保している。県内では、436の医療機関で迅速診断キットを使った検査ができるように準備している」と説明しました。

## 医療者などに定期検査を

大分県では、31の医療機関で336床+6カ所の宿泊療養施設で700室、感染患者の受け入れが可能です。

「スタッフの体制や防護具は大丈夫なのか」とえんど県議。藤内課長は「感染症の専門医以外にも対応いた

だいており、感染症以外の他の診療への負荷が出てきている。宿泊療養施設の医療職や事務職ふくめ防護具等も準備できている。強化に向けて協議したい」と答えました。

これまでも、医療・介護現場の定期的な検査など検査数を増やすことや保健所の正規職員増員などを求めてきました。今後ともがんばります。

